

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 支援 - 27

学校名・団体名	御船町立滝尾小学校
HPアドレス	http://es.higo.ed.jp/takiosyo/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	命を守り、郷土を誇れる防災教育
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>本校は、校区を御船川が流れ、山に囲まれた自然豊かな学校である。平成28年熊本地震により通学路の国道445号線が不通になり学校を移設して教育活動を行うなど不自由な生活を経験した。本校の校区は、これまでも崖崩れ、洪水など自然災害にみまわれた地域である。</p> <p>そこで、地域の地形や自然、過去の災害などを調べ、危険箇所を把握し、校区に必要な防災の在り方について考える。また、各学年、地域学習で、地域の人や自然とのふれあいを行い、地域のよさを考える場を設ける。地域を調べ、学ぶことで、災害時には、自分を守り防災の視点をもった行動がとれる児童の育成をめざす。更に、児童の学びを保護者にも広げ、PTAと連携した防災教育を推進していく。</p> <p>以上の活動を通して、自分の命は自分で守る（自分で考え行動できる）児童の育成を目指し、防災教育を推進していくことにした。</p>	

1 研究主題

命を守り、郷土を誇れる防災教育

2 ねらい

- (1) 職員の危機管理意識を高め、防災教育の計画を見直し、避難訓練をはじめ、教育活動全体で防災教育を推進する。
- (2) 総合的な学習の時間等で、校区の自然を調べたり、人々と交流したりするなどの活動を通して、郷土のよさにふれ、自分の郷土を守っていかこうとする主体性のある児童を育成する。

3 取組の実際

(1) 児童を対象にした防災教育

① 旧水越小学校への歓迎遠足 (4月14日)

本校に統合した旧水越小学校への歓迎遠足を行った。途中の高台から校区だけでなく御船町全体の様子を見て、自然に囲まれた町であることについて知る機会とした。自然が豊かということは自然災害に見舞われる恐れも多いことや、先人はそれを克服しながら生活してきたことなど学んだ。

② 「命と防災の日」集会 (通年隔月)

以前校区で起きた交通事故のこと、東日本大震災の大川小学校のこと、阪神淡路大震災のことなどを校長の講話を中心に児童に考えさせた。その後、学級でも命と防災について考える機会を持つことができた。

③ 避難訓練 (不審者、火災、シェイクアウト)

様々な場面を想定した避難訓練を年3回実施した。それぞれ警察、消防などの関係機関の方招き話をしてもらうことで災害等への興味関心を高め、実践につながるようにした。

④ 防災講話 (12月5日)

講師：NPO法人さくらネット 河田のどか さん他2名

小学校1、2年生で阪神淡路大震災を経験し、現在、防災教育に取り組んでおられる河田のどかさん他2名の方をゲストティーチャーに招き、阪神淡路大震災の時の話をしてもらった。児童は、河田さんの話から、「自分の命は自分で守ること」「自分たちが今回受けた支援に感謝し、できることをしていきたい」など、自分たちの生き方を考える場となった。



シェイクアウト訓練



「命と防災の日」集会



防災講話

(2) 防災をテーマにした交流活動

① 御船町自然体験交流キャンプ (8月24日、25日)

震災時支援していただいた岐阜の本荘小学校、愛知の東山学区の6年生児童と本校の5年生が熊本で交流キャンプを行った。様々な体験活動を通して防災について学習することができた。

② 岐阜・愛知ぼうさい交流会（2月9日、10日）

夏の交流キャンプでできた繋がりから、本校5年生が岐阜の本荘小学校で震災体験について発表した。また、本荘小学校、東山学区の取組を学ぶことができた。



(3) 教職員で取り組む防災教育

① 校内研修：講話（防災教育計画の見直し）8月25日

昨年度末作成した学年防災（ハザード）学習計画による学習の課題を洗い出し、防災教育としての活動の深化を図るため、防災学習アドバイザー・コラボレーター 諏訪 清二さんの講話を聞いた。また、震災後、数年に亘る児童の心身の変化など、神戸や東北の児童生徒の姿から留意すべき事柄について具体的に話をしていただいた。学校総体として取り組む防災教育の方向性を考える研修の機会となった。

② 先進校視察（兵庫県姫路市立手柄小学校）12月10日、11日

本校職員2名で、防災教育について先進的な取組を行っている姫路市立手柄小学校の総合的な学習の時間を授業参観し、事後研究会に参加した。また、兵庫県震災・学校支援チームEARTHの先生方と情報交換を行うことができた。その他、阪神淡路大震災記念「人と防災未来センター」、神戸市長田区も見学することができた。視察後、校内での復講で職員にも周知することができた。

③ 防災教育年間計画の見直し

防災学習アドバイザー・コラボレーターの諏訪清二さんに、本校の防災教育、年間計画の作成に向けて助言をいただいたことをもとに、本校の現況にあった防災教育の計画を見直した。各学年総合的な学習の時間を中心に系統的に取り組んでいくことにした。

4 成果と児童の変容

○ 熊本地震から約2年が経ち、児童の防災意識が少しずつ減退しているように感じられるが、反面、平素の落ち着きを取り戻し自らの被災経験から学習を深めることができるようになってきたように思う。記憶と知識を重ねながら学習に取り組んでいることで、災害時にどう行動すべきか考えることができてきた。今後も防災・減災への行動意識の涵養に努める。

○ 昨年度から、多くの人との出会いや学習の中で、感謝の心も育ってきた。学習成果発表会でも、家族だけでなく、地域の方々に元気に学習している姿を見せることができた。また、「岐阜・愛知ぼうさい交流会」に参加した5年生は、自らの被災体験を踏まえて、地震が起こった時に気をつけることなどを発表することができた。熊本地震をマイナスで考えるだけではなく、たくさんの人に支えられ、つながることができたことに感謝する気持ちも育っている。

○ 地域・家庭・学校が一体となって児童を守ろうとする意識が更に高まってきた。多くの方が登下校時の見守りに取り組んでいただいたり、学校行事に参加していただいたりと協力体制が高まってきた。子どもたちは地域の中で育つという意識を更に高め、校区と一体となった取組の推進を図っていく。

